

GUARDIANWALL V8.0.00 リリースノート

GUARDIANWALL V8.0.00 では、次の機能追加および既知の問題に対する修正をおこないました。

1. 機能追加

GUARDIANWALL V8.0.00 へのバージョンアップにおいて、以下の機能を追加しました。

(1) ライセンスの新モデル体系

モデル：共通

GUARDIANWALL モデル体系が新しくなり、お客様の必要な機能単位でモデルをお選びいただけるようになりました。

モデルは「フィルタリングモデル」、「アーカイブモデル」、「添付ファイル ZIP 暗号化モデル」の三種類となります。

※Standard モデル、Advanced モデルをご利用中のお客様は、従来と変わらない機能範囲をご利用いただけます。

- 管理サーバー利用の手引き『20 ライセンス体系の変更について』(636 ページ)

(2) 標的型攻撃対策機能

モデル：フィルタリング

標的型攻撃の疑いのあるメールを検知できるようになりました。

標的型攻撃と判定された場合、件名への警告文挿入や管理者への通知メール送信により、標的型攻撃の疑いがあるメールを受信したユーザーが安易に開封しないように促すことが可能です。

- 管理サーバー利用の手引き『3-3-5-5 標的型攻撃メール検知設定』(246 ページ)

(3) 宛先 Bcc 変換機能

モデル：フィルタリング

To もしくは Cc に設定された宛先を Bcc に変換してメールを送信できます。

メールの一斉送信時などに誤って To や Cc に宛先を入れてしまっても Bcc に変えて送信できるので、うっかりミスを防げます。

- 管理サーバー利用の手引き『3-3-1-1 検査・配送ルール』(130 ページ)

(4) ユーザーメールダウンロード機能

モデル: アーカイブ

今までは GUARDIANWALL にアーカイブされているメールデータを、管理者のみが検索およびダウンロード可能でしたが、ユーザー自身により検索およびダウンロードができるようになりました。PC 故障時など、ユーザーが自身に必要なメールをダウンロードすることができるため、管理者の負担が減少します。

- 管理サーバー利用の手引き『7 一般ユーザー』(432 ページ)

(5) 全文検索 一括ダウンロード機能

モデル: アーカイブ

メールのヘッダー、エンベロープ情報、添付ファイルに対してキーワード検索した結果を eml 形式や mbox 形式でダウンロードすることができるようになりました。

- 全文検索システム利用の手引き『検索結果のダウンロード』(23 ページ)

(6) メール取り込みツール

モデル: アーカイブ

eml 形式のファイルを、メール取り込みツールを使って GUARDIANWALL のアーカイブとして取り込むことができるようになりました。

- 管理サーバー利用の手引き『13-20 eml2wall.php』(525 ページ)

(7) 社外メール宛先アドレス色分け機能

モデル: フィルタリング

保留したメールの送信先が社外のメールアドレスの時に、メールアドレスが赤色で表示され、さらに一目で社外宛先の含まれるメールがわかるようにアイコンがつけました。

- 管理サーバー利用の手引き『3-3-2 保留メール管理』(178 ページ)

(8) 保留宛先・添付ファイルチェック機能

モデル: フィルタリング

保留したメールの宛先や添付されたファイルをチェックしてからメールを送出できる仕組みができました。

強制的に宛先チェックと添付ファイルチェックができるので、うっかりミスが激減できます。

- 管理サーバー利用の手引き『3-3-2 保留メール管理』(178 ページ)

(9) 保留メールの検索機能

モデル: フィルタリング

保留メール画面で、「発信者」・「宛先」・「保留タイプ」を条件にして一覧からメールを検索することができるようになりました。

- 管理サーバー利用の手引き『3-3-2 保留メール管理』(178 ページ)

(10) ライセンス期限のメール通知機能

モデル: 共通

本バージョンよりライセンスの有効期限が設定されました。それに伴い、ライセンスの有効期限が迫ると管理者へメールで通知することができるようになりました。

- 管理サーバー利用の手引き『3-2-1-1 基本設定』(38 ページ)

(11) サポートデータのダウンロード機能

モデル: 共通

サポートにお問合せいただく際、お問合せ内容の調査に必要な、設定内容やログなどの情報を GUARDIANWALL の管理画面から簡単に取得できるようになりました。

- 管理サーバー利用の手引き『3-2-3-4 サポートレポート』(115 ページ)

2. 修正

GUARDIANWALL V8.0.00 へのバージョンアップにおいて、以下の不具合を修正しました。

(1) テープバックアップ／テープリストア機能の修正

モデル：共通

テープへのバックアップ、テープからのリストアの期間を長期間指定し、実行した際にエラーが発生してしまう問題がありました。修正しました。

(2) 管理者アカウント／パスワード登録の修正

モデル：共通

情報管理者、部門情報管理者、システム管理者におけるアカウント名とパスワードは異なる文字列の組み合わせで設定する必要があります。

本仕様において数字のみを利用して登録した場合、桁数を変えただけでは同一として識別され登録できない問題を修正しました。

例えば文字列として異なる「1」と「0001」をそれぞれアカウント名とパスワードに登録しようとした場合に数値として同一として評価され登録できませんでした。

(3) 脆弱性対応

モデル：共通

以下の脆弱性に対応しました。

POODLE：SSLv3.0 脆弱性(CVE-2014-3566)

(4) 通知文設定の修正

モデル：フィルタリング、添付ファイル ZIP 暗号化

通知メールのメール表題に半角スペースが存在した際、半角スペースが削除される問題を修正しました。

(5) 代替管理者設定の修正

モデル：フィルタリング

検査・配送ルールの設定の中で、代替管理者のアドレスに指定できる上限値は 8 個でしたが、ファイルのアップロードから同ルール設定を実施する際には 9 個まで登録できてしまう問題を修正しました。

(6) 添付ファイルダウンロード時の文字化け修正

モデル: フィルタリング、アーカイブ

保存メール管理、保留メール管理の本文閲覧において、日本語ファイル名の添付ファイルをダウンロードした際に文字化けする問題を修正しました。

(7) パスワード通知メール設定の修正

モデル: 添付ファイル ZIP 暗号化

添付ファイル ZIP 暗号化でのパスワード通知メールの表題に「: (コロン)」が含まれている場合、表題がすべて表示されない問題を修正しました。

3. システム要件

GUARDIANWALL V8.0.00 を利用するには、以下の要件を満たしたハードウェア／ソフトウェアが必要となります。

【サーバ】

OS	<ul style="list-style-type: none">・RedHat Enterprise Linux Version 5 ※Red Hat Enterprise Linux Desktop は未対応 以下のパッケージがインストールされている必要があります。 ed、tcl、compat-db(32bit)、compat-libstdc++-33(32bit)、mt-st・RedHat Enterprise Linux Version 6 以下のパッケージがインストールされている必要があります。 compat-db(32bit)、compat-expat1(32bit)、 compat-libstdc++-33(32bit)、cyrus-sasl-lib(32bit)、 libuuid(32bit)、mt-st、ncurses-libs(32bit)、tcl
CPU	上記 OS が動作する IA-32(Pentium 以上)、Intel64 プロセッサ (Itanium2 は非対応)
ディスク容量	<ul style="list-style-type: none">・管理サーバー /opt 最低:1GB、推奨:※ /var 最低:100MB、推奨:1GB・検査サーバー /opt 最低:1GB、推奨:※ /var 最低:100MB、推奨:500MB・管理サーバー+検査サーバー /opt 最低:1GB、推奨:※ /var 最低:100MB、推奨:1GB ※システム稼働後は各種データが出力／保管されますので、運用を考慮した空き容量を用意してください。
仮想環境	上記対応 OS の動作を保証している仮想環境

【管理用クライアント】

OS	Windows Vista SP1/SP2、Windows 7 SP1、 Windows 8/8.1 update
ウェブブラウザ	上記 OS で稼働している Internet Explorer 7.0、8.0、9.0、10.0、 11.0
その他条件	ウェブブラウザの JavaScript が有効であること

【スマートデバイス】

OS	iOS 7.1
ウェブブラウザ	Safari

以上